

やすらぎの城下町ささやま



- 県立自然公園多紀連山
- 鑄市ダム

- P 駐車場
- トイレ
- 車いすトイレ
- 案内板
- 銀行
- 郵便局
- 信号
- バス停
- 宿
- みやげもの店
- 食事処
- 喫茶店
- 桜の名所
- 紅葉の名所
- 国重要伝統的建造物群保存地区

青山台ゴルフ倶楽部

国道173号線

国道173号線 池田・亀岡園部

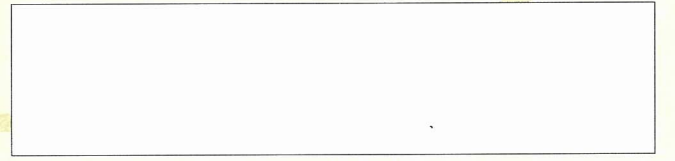


JR篠山口駅から城跡まで約6km

鉄道	JR篠山口駅	篠山市大沢	(079)594-0225
バス	神姫グリーンバス篠山営業所	篠山市糶ヶ坪	(079)552-1157
タクシー	日本交通篠山営業所	篠山市大沢	(079)594-1188
	高田タクシー	篠山市乾新町	(079)552-1144
レンタサイクル	篠山観光案内所	篠山市北新町	(079)552-3380
	西牧みやげ店	篠山市二階町	(079)552-0254
	ユニティピアささやま	篠山市矢代	(079)552-5222

- 車塚古墳
- 坂見四十八滝
- チャルミュージアム
- 洞光寺

- 神姫バス営業所
- 京口橋北詰
- 真福寺
- 本経寺
- 能楽資料館
- 観音寺
- 丹波古陶館
- 立町
- 河原町
- 河原町三叉路
- 本篠山
- 小川町
- 南新町
- 南バイパス
- 桜づつみ公園
- 篠山消防本部



多紀連山をはじめとする山々に囲まれた丹波篠山は、篠山盆地の中心にあり、そこには数千年の昔より人々の生活が営まれ、縄文・弥生時代の文化を物語る出土品も数多く発見されています。

古墳時代に入ると、車塚古墳の存在からもわかるように、中央と直結した豪族がいたことは明らかです。

そして、大化年間(645~9)に空体仙人が開創したと伝えられる大國寺と、そこに安置されている5体の仏像(重文)からは、奈良時代から中世にかけて仏教を中心とした高度な文化が栄えたことがわかります。

中世の終わりに、波多野氏が八上城(高城山)を拠点として丹波一帯に勢力をもっていました。天正3年(1575)ごろから、織田信長の命を受けて丹波攻めを行った明智光秀により、天正7年(1579)6月に落城したといわれます。慶長13年(1608)、徳川家康は大阪城と山陰・山陽路の連絡を絶ち、西国大名に対する抑えとするため、常陸国(茨城県)の笠間城から実子松平康重を八上城に移し、ただちに新城の築城を命じました。

慶長14年(1609)、西国15カ国・20の諸大名に助役を命じ、一日約8万人を動員してわずか6ヶ月で「笹山」という丘陵に城を完成させ、それを中心に広がった城下町が篠山です。篠山は、京文化の影響を受けながら、丹波の都として栄え、丹波の気候・風土の中で独特の発展をとげ、今なお、学術的にも美術工芸的にも優れた文化遺産を伝えています。

1 篠山城跡

別名桐ヶ城と呼ぶこの城は、築城家の第一人者、藤堂高虎の縄張りで行われた平山城で、方形約400メートルの小規模であるものの、要所には2重の櫓型や、2重、3重の櫓を配した堅固なものでした。のち、建物は全て取り壊されましたが、復元された大書院や石垣などの城郭遺構はほぼ昔のままの姿をとどめています。特に南の馬出は、土塁馬出として全国唯一のものでした。

今も満々と水をたたえた外濠に囲まれた城跡は、桜の名所として知られ、篠山を訪れる旅人や当地の人々の憩いの場となっています。

2 篠山城大書院

大規模な木造平屋建築で、昭和19年(1944)に焼失し半世紀ぶりに復元されました。一大名の書院としては破格とも言える規模と正統的な構えをもっています。

●月曜日休館(祝祭日は開館、翌日休館) ●入館料 400円
●開館時間 9:00~16:30

3 武家屋敷

篠山城跡の西外濠ぞいの南方に、濠と城に向かって、入母屋造りのカヤ葺で武者窓をつけた白壁の小林家長屋門があります。そしてもう一つ西側にはお徒士町(おかちまち)通りがあり、そこに安間家史料館があります。これらはお徒士衆(藩主の警衛にあたる)の家屋で、土堀に囲まれた静かなたたずまいは、今もお江戸時代末期の雰囲気十分に残っています。

4 武家屋敷安間家史料館

安間家は篠山藩主青山氏の家臣で篠山藩の標準的な徒士住宅でした。内部には安間家に残された文書、食器、家具をはじめ篠山藩ゆかりの武器を展示しています。

●月曜日休館(祝祭日は開館、翌日休館) ●入館料 200円 ●開館時間 9:00~16:30

5 誓願寺

篠山城構築と同時に八上城(高城山)周辺の神社、仏閣は新城下に移築し、いわば、城下の都市計画の一環として寺院も配置されました。誓願寺もこの時、八上城誓願寺谷から現在のところに移された寺であり、山門は特にすばらしく、鐘楼、本堂などの配慮も見事です。

6 青山歴史村

青山歴史村には、長屋門を始め、全国的にもほとんど残存していないとされている漢学書関係の版本1,223枚、篠山城石垣修理用の図面、藩制始末略、印判、狩野派の絵、ねずみ草紙等、江戸期の歴史と文化の素顔に触れて学べる史料を数々展示しております。

●月曜日休館(祝祭日は開館、翌日休館)
●入館料 300円 ●開館時間 9:00~16:30

7 大正口マン館

篠山城跡北外濠一帯は鳳鳴義塾(ほうめいぎじゅく)跡です。このあたりは官公庁関係の建物が多く、なかでも大正口マン館の建物は、大正12年(1923)4月の落成当時、篠山の町では最もモダンな建物でした。明治・大正の代表的な洋風建築として価値あるものです。現在は観光の中核として、観光案内所やお休憩として活用されています。

8 春日神社

篠山春日神社は、貞観18年(876)奈良の春日神社の分霊を今の篠山城跡へ勧請したもので、篠山城が築城されるに際し、この地へ移されたものです。

境内には文元元年(1861)藩主によって寄進された能楽殿があり、当時箱根より西では最も立派なものといわれた舞台です。現在も、1月1日午前零時には「翁」、春には「篠山春日能」が奉納され、古雅な芸術文化を今に伝えています。絵馬堂には22面の絵馬が展示され、中でも「黒神馬」「大森彦七南朝の雄魂に悩まされる図」は名作といわれています。

9 歴史美術館

明治24年(1891)に篠山地方裁判所として建てられ、昭和56年(1981)まで使用されてきたわが国で最も古い木造の裁判所の建物を、重要建造物として永久保存するため、美術館にふさわしく内部を改築したものです。館内には古くから城下に伝わる美術品をはじめ、江戸時代末期に篠山藩窯として開窯した王地山焼の名品の数々、さらに古代からの埋蔵文化財を一堂に集めて展示しています。

●月曜日休館(祝祭日は開館、翌日休館) ●入館料 300円 ●開館時間 9:00~16:30

10 城郭の一角をなす寺々

城下町の造営(都市計画)は篠山築城と深いかわりがあり、特に寺院は信仰の場としてよりも、兵たちの参集施設、武官の陣所としての機能を多分にもっていました。旧八上城下からの名刹も新城下の要所に移築され、軍事的な効果をねらった寺院配置は見事です。

▼かちん染の袴



▲六十二間総覆輪兜 (大永7年(1527))

11 丹波杜氏酒造記念館

古くから丹波篠山地方は酒造りの町として知られ、最盛期には五千有余の人々が灘五郷を始めとした全国各地、遠くは中国・満州まで酒造りに出ていました。酒造技術の近代化によって失われつつある各種の酒造用具類や資料を収集し、昔の酒造りの工程を中心に展示しています。

●土日祝休館(12~3月) ●入館料 100円 ●開館時間 10:00~16:00

12 王地山まけきらい稲荷

王地山は七尾七谷といわれ、春の桜、秋の紅葉の美しさで知られています。元和5年(1619)遷座のまけきらい稲荷は土俵の上にまつられ、勝利守護の神として遠近からの信仰があつく、必勝祈願の人々の参詣で賑わいます。

13 王地山陶器所

王地山焼は、江戸時代末期の文政年間、時の藩主青山忠裕が京都から名工欽古堂亀祐を招いて指導させ、青磁、染付、赤絵を主とした磁器の藩窯でした。廃藩と運命を共にしましたが、昭和63年に120年を経て復興しました。

●火曜日休館 ●開館時間 9:00~17:00

14 河原町妻入商家群

旧街道の面影を残した町並みの河原町は、築城後まもなく町造りがはじめられ、城下町篠山の商業の中心として大変栄えました。

家並みは、妻入商家に代表され、5~8メートルほどの狭い間口、しかし奥行きは大半が40メートル以上と深く、表構えの大戸、千本格子や荒格子、中二階の出格子、ムシコ窓、さらに袖壁、椀(うだつ)が残り、往時の姿を今に伝える素晴らしい景観を織りなしています。

15 能楽資料館

藩政時代から篠山地方に伝わる能楽の資料はもとより、中世から近世にかけての能面、装束、楽器等貴重な品々の収集研究を目的とし、歴史的・美術工芸的な視点を中心に展示しています。また館の蔵品は篠山の能楽殿をはじめ、各地の演能に使用されています。

●月曜日休館(祝祭日は開館)
●入館料 能楽資料館 丹波古陶館共通入館券700円
●開館時間 9:00~17:00

16 丹波古陶館

丹波焼の創世期から江戸時代末期までの約700年間に作られた代表的な品々を、年代・形・釉薬・装飾などに分類して展示しています。

丹波焼の代表的な色である赤土部釉の燃えるような輝きや、魚文・葉文などを施した水ガメや壺、筒描きや鉄絵の德利・塩壺など、使われた丹波焼は、素朴な美しさとともに、その時々生きてきた庶民の生活そのものです。

●月曜日休館(祝祭日は開館) ●開館時間 9:00~17:00



▲小面 (室町時代初期)



▲自然釉三筋壺 (平安時代)

お問い合わせ先

篠山観光案内所 TEL(079)552-3380
篠山口観光案内所 TEL(079)590-2060
ホームページ <http://www.city.sasayama.hyogo.jp/>